

10月17日～23日は「薬と健康の週間」です

～ 理解を深めよう！ 薬のこと、薬剤師のこと ～

病気やけがを治すのに役立つ「薬」。私たちにとって身近な存在である「薬」ですが、正しく使わなければ思わぬ副作用が起きる可能性があります。薬は十分注意して使用しましょう。

薬の種類を知ろう

薬には医療用医薬品と市販薬に分けられます。

① 医療用医薬品

医療機関で医師がその人のために処方する薬です。人により処方される薬は違います。症状が似ても絶対に他人に上げないでください。

② 市販薬（OTC 医薬品）

薬剤師による情報提供を踏まえて、症状にあわせて購入できる市販の薬です。

薬剤師の役割を知ろう

薬のプロフェッショナルである薬剤師は、薬局や病院はもちろんのこと、社会のさまざまな場面で活躍しています。

薬局や病院で



- 処方せんに基づく調剤（医薬品の説明と手渡し）のほか、服薬指導、薬に関する情報提供など
- 風邪薬など市販薬を購入したいとき、ベビー用品、介護用品などに関する相談を受ける
- 在宅医療における薬や健康に関するサポート



社会の中で

- 製薬会社で新薬の開発に携わる
- 医薬情報担当者（MR）：医薬品の情報を医療従事者に伝え、医療現場で得た情報を研究開発部門等につなぐ
- 行政：麻薬取締官、行政薬事監視員、食品衛生監視員
- 公認スポーツファーマシスト：最新のドーピング防止規制に関する正確な情報・知識を持ち、国の競技者を含めたスポーツ愛好家に対し薬の正しい使い方を指導する

薬は正しく使いましょう

① 薬を飲むタイミングを守りましょう

薬はそれぞれ決められたタイミングで飲まないと、効果がなかったり副作用が生じたりします。食前・食後・食間・就寝前・頓服の指示は守りましょう。

② 薬の飲む量や期間を守りましょう

薬は決められた量より多く飲んだからといってよく効くものではありません。また、症状が治まったからといって使用をやめると再発したり完治しない可能性があります。

③ 飲み合わせに注意しましょう

複数の薬を使用している場合、飲み合わせが悪いと十分な効果が得られなかったり、逆に効きすぎて悪影響を及ぼします。

④ 正しく保管しましょう

- ・湿気、日光、高温を避けましょう
- ・誤用を避けるため、薬以外のものと区別して保管しましょう
- ・古い薬は破棄しましょう

お薬手帳を活用しよう



メリット

- ① 処方薬の履歴を残し、薬の副作用やアレルギー、薬局で買った市販薬のこともメモしておける
- ② 薬剤師が重複投薬や相互作用を確認できる
- ③ 6ヶ月以内に同じ薬局で調剤してもらう場合、薬剤服用歴管理指導料の割引きがある
- ④ 旅行中や災害時も服用歴を共有できる